# （株）エフワイアグリ

各務 栄作さん　　豊前市

## 知識・経験ゼロから農業界参入へ

## 最新テクノロジーを駆使し急成長

母体は、九州産うなぎを加工販売する（株）福岡養鰻。事業の多角化として、農業参入を検討する中で、（株）果実堂（熊本県）の存在を知ることに。（株）果実堂では、日本最大のベビーリーフ農場を経営。今まで標準とされていた作業や技術を、科学的アプローチにより見直し、最新テクノロジーを利用して有機栽培を実践していました。そこに未来の農業界の在り方を感じ、成功するイメージが浮かんできたとのこと。農業コンサルティングを行う（株）果実堂テクノロジーの技術指導を受け、平成30年に新規参入。

現在、環境に配慮した持続可能な形で、地域農業を盛り上げるべく、有機農業を大規模栽培で実践し、地域活性化に繋げています。

経営理念は「未来にあたらしい種をまく」。社員一同で未来へのチャレンジを続けていく企業でありたいと願いをこめています。

**株式会社エフワイアグリ**

栽培品目：ベビーリーフ、ホウレンソウ（有機）
アスパラガス（減農薬・減化学肥料）
イチゴ
経営面積：約10ha（有機面積6ha）
従業員数：45名（正社員15名、パート30名）
外国人技能実習生含む
販路：大手百貨店、量販店、輸出

Website
https://fyagri.jp/

エフワイアグリ
FY agri co.,ltd.

## 有機栽培の概要

**1．有機栽培の取組**

（株）エフワイアグリでは、ベビーリーフ、ホウレンソウを有機栽培。圃場ごとに最も適切な環境を作るため、土壌分析を年に2回行い、オーダーメイドで施肥設計を実施。有機質肥料を中心に土づくりを行うことで、土壌の物理性・生物性を改善し、アミノ酸、ミネラル等の足りない栄養素を補填します。

病害虫対策では、ハウスの外側に防虫シートを被せ、近隣の草刈りを積極的に行うことで、事前に予防します。

**2．こだわりポイント**

雑草対策として、散水のタイミング、水分量から雑草の生育をデータ化し、科学的側面から分析を行い、水管理を行うことで、極力雑草を生やさないように対策しています。

土壌水分センサーや潅水制御システム等のスマート農業を活用しており、ベビーリーフでは年間14回転と安定した収量を確保しています。

栽培ハウスは160棟(HPより)

## 経営面の取組・工夫

経営ビジョンとして、最先端の農業経営を目指すことを会社設立時より目標にしています。そのため、当初より様々な認証取得を見据えた事業展開を組み立て、社員の意識教育にも繋げました。「安全安心な野菜が欲しい」という量販店の要望に応えるため２０２０年有機ＪＡＳ認証を取得。

商品の梱包準備作業

GLOBALG.A.P.も取得していますが、取得以前より、各作業工程の管理基準を早期に定め、社員に対し取り組みの意識づけを行ってきました。

認証取得が、会社としての認知度・信用度アップに繋がっていると実感しており、メディアの取材も度々受けています。

人材育成にも力を入れており、仕事を通じて、自身の成長にも繋げてもらうため、正社員は1年目より「業務改善報告」を作成し、作業改善・費用対効果等を踏まえたプレゼンを実施します。考える力を養いながら、働いて貰うことが狙いのようです。

## 今後の展開

引き続き、豊前市を中心にハウス面積を拡大予定で、将来的には豊前エリアに20haの圃場面積を確保し、300棟のハウス建設を目標としています。

そして、生産・販売体制づくりに力を入れ、強固な経営基盤を作り、地域を巻き込む儲かる農業を展開し、有機農業の取組に関して、「エフワイアグリに相談したいよね」と言われるプラットフォームのような存在になりたいとのことでした。

来年度より、大分県中津市でベリーツ（いちご）の生産、令和10年度からはアスパラガスの生産に挑戦する予定です。

従業員による作業

## もっと聞いてみました！

### Q. どのような職場ですか？

**A.** 20代から30代が中心の若くて活気がある職場です。会社を成長させるのは、人材だと気づいてからは、育成にかなりの時間と労力をかけ、徹底的に鍛えています。責任を持って仕事をして貰うなかで、自分自身の成長、会社の成長につなげて貰います。

そして、意欲があればチャレンジでき、個人個人の裁量で仕事を進めることができる環境も整備しており、働きがいがある職場です。

### Q. 会社を設立して苦労したことは？

**A.** 曾祖父が豊前市出身で、親戚が市の農林課に勤めていたこともあり、資本を持って農業参入しましたが、縁もゆかりも薄い地域であったため、協力者が少なく、農地取得は相当苦労しました。

また、有機栽培の技術指導を受けたものの、気候や土壌条件が異なる中で、工夫を加えたくなるところを我慢し、栽培技術のコアの部分に関しては、徹底的に従業員に遵守させる難しさを感じました。

### Q 外国人技能実習生の雇用について状況は？

**A.** 当社は、フィリピン、インドネシアから実習生をパートとして10名雇用しています。会社の方針は「実力評価」であるため、国籍、人種で評価を変えることはありません。そのため、仕事ができれば日本人より時給が高く、指導できる立場の方もいます。

また、最初は日本語が話せずコミュニケーションがとれない方もいるため、日々の作業日誌を日本語で記載、朝の朝礼では日本語でスピーチ、日本検定試験に合格すると時給に反映する等インセンティブも設けています。

今、実習生を正社員として登用することを目指しています。

### Q. この先、心配なことは？

**A.** 農家がこの先どうしたら収入が増え、若者に魅力ある職業として選択してもらえるかということを心配しています。消費者は価格の価値観が食料品に対してシビアであり、生産資材コストの上昇を受けても、需給で決まる価格への転嫁が難しいと考えます。

農産物の価格が上がっていくことで収入が増え、若者が希望を持つためにも、消費者が価格上昇を理解してくれる仕組みづくりに期待しています。